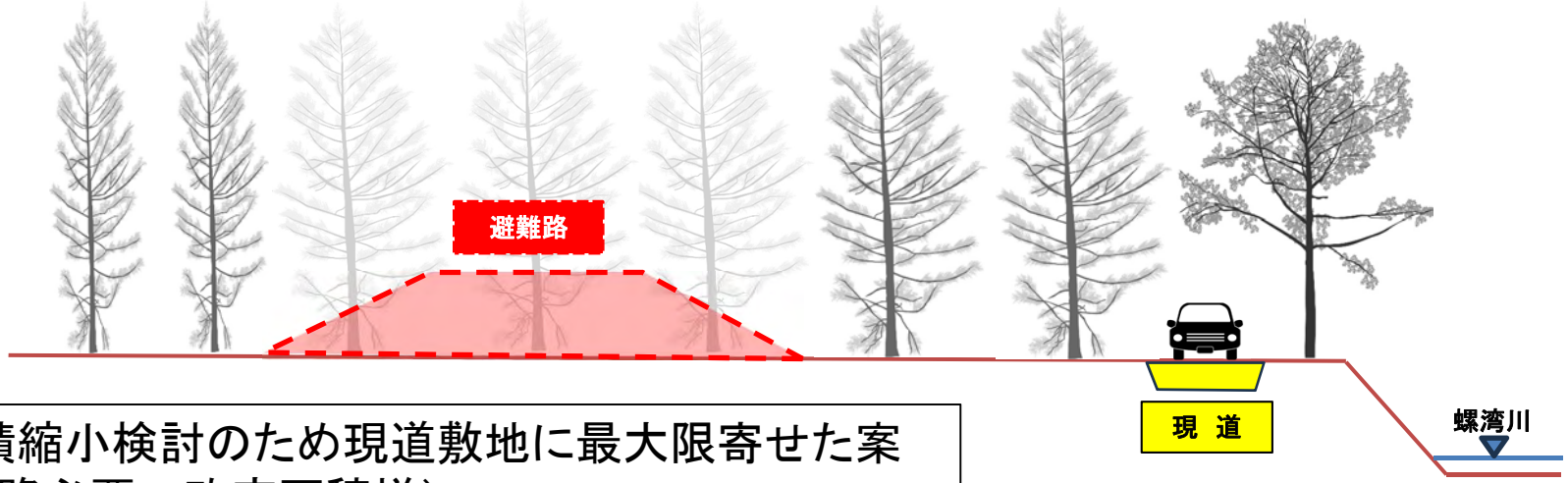
3.国立公園内道路線形（う回路等）及び十勝自然保護協会質問について

3.国立公園内の線形等（う回路等）について

現計画案：現道を現状のまま使用（工事中の往来確保）
（う回路不要➡改変面積最小）　※「う回路」とは工事に伴う「仮設道路」のことを意味します。



改変面積縮小検討のため現道敷地に最大限寄せた案
（う回路必要➡改変面積増）

・現道上にできるだけ寄せて道路を建設することで、避難路そのものによる改変面積は減少する。
・その場合、現道幅員が減少し避難路状態が現状よりも悪化する。
・螺湾・オンネトー間の安全な往来を確保できなくなるため、う回路（仮設道路）が必要になる。➡結果的に改変面積が増加。

＜避難路道路線形検討に当たって自然環境保全面で主に留意した事項＞

・改変面積を少なくする。
・重要種（植物）および国立公園指定種（植物）消失箇所を少なくする。
・風穴（岩塊が積み上がってできた隙間）およびヒカリゴケ消失箇所を少なくする。

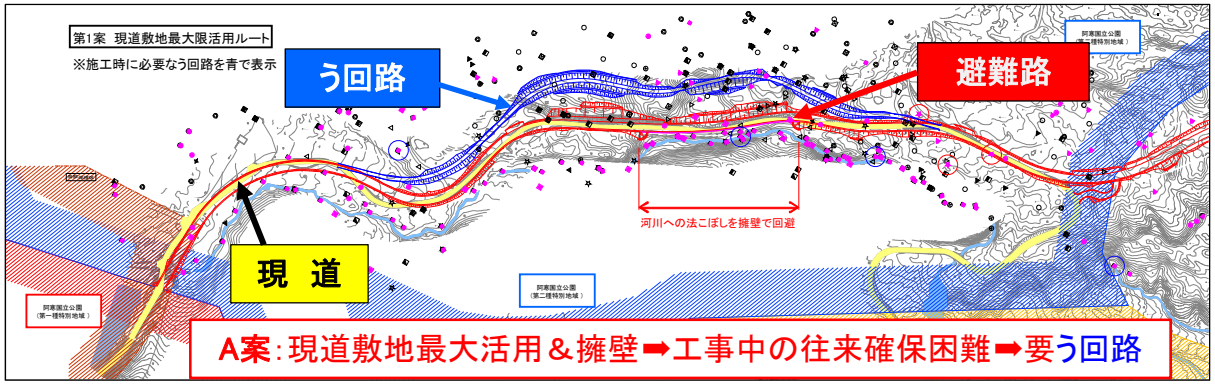
H29第1回WS資料より

項　目	H27計画案 （当初計画：第5案）	H28検討案 （現計画：第5案）	備　考
改変面積	11万m2	9万m2	2万m2減少
重要種（植物）消失箇所	172箇所／1045箇所	163箇所／1045箇所	172箇所➡163箇所に減少 （85%保全）
風穴・ヒカリゴケ消失箇所	10箇所／33箇所	5箇所／33箇所	10箇所➡5箇所に減少 （85%保全）

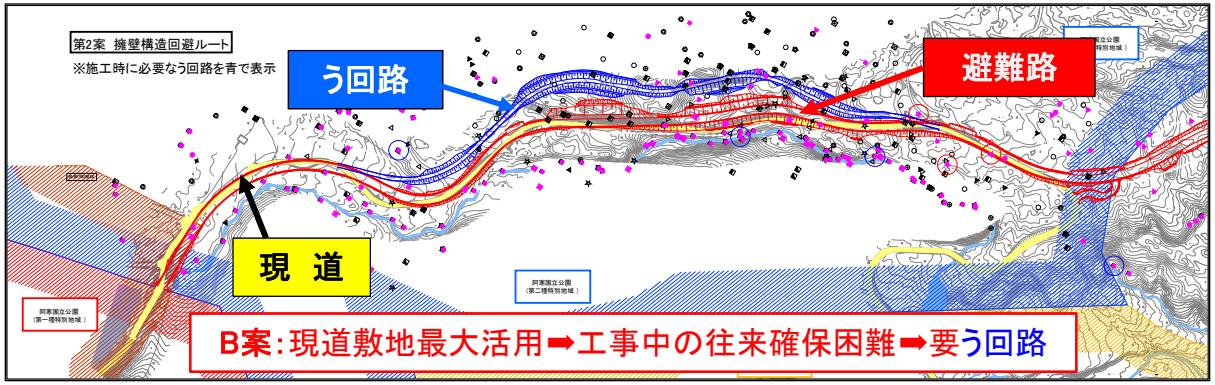
※計画道路4.4km区間全体の数値

令和6年度　モアショロ原野螺湾足寄停車場線
モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

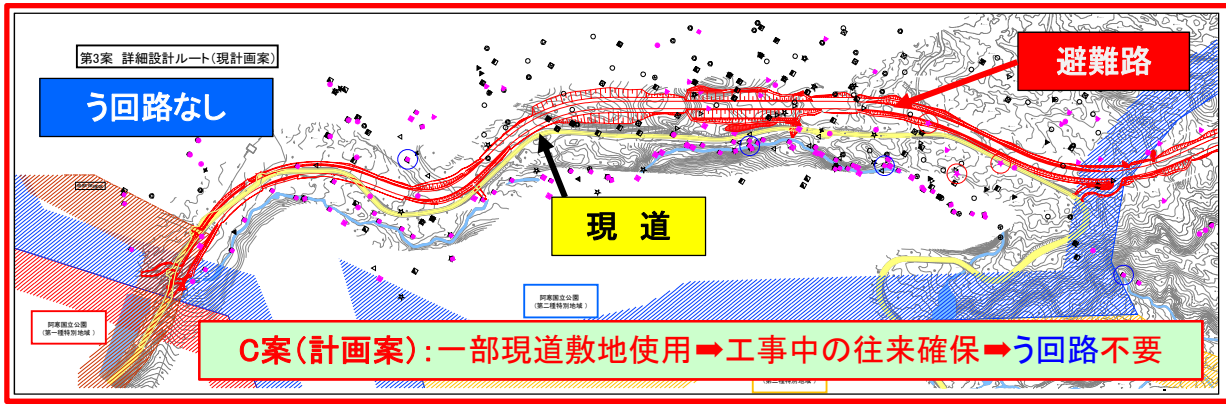
令和5年度　第2回WS提示資料（国立公園内道路線形）　※前回WSでは1案、2案、3案としたが、ここではA案、B案、C案とする



項目	重要種保全	公園指定植物保全	改変面積	土工バランス	評価
	△	○	○	△	○ 6点
	消失箇所 14箇所	消失箇所 44箇所	26,608m2	不足土 8,070m3	
	現道敷地を最大限活用した場合、河川への法こぼしを回避するために擁壁が必要になり、施工時に雌阿寒岳が噴火した際に現道交通を確保する必要があることから、う回路が必要になるため、改変面積が増加し、重要種や公園指定植物の消失箇所が多くなる。また、全体の土工バランスが不足土となるため、当該区間外からの土を流用する必要があることから、通過ルートとして不適当と判断した。 評価点数：◎3点　○2点　△1点				



項目	重要種保全	公園指定植物保全	改変面積	土工バランス	評価
	○	△	△	△	△ 5点
	消失箇所 13箇所	消失箇所 46箇所	28,622m2	不足土 10,079m3	
	第1案に対し、擁壁構造を回避するために一部線形を河川の法こぼしが発生しない位置に選定したが、施工時に雌阿寒岳が噴火した際に現道交通を確保する必要があることから、う回路が必要になる。改変面積も最も大きく、重要種や公園指定植物の消失箇所が多くなる。また、全体の土工バランスが不足土となるため、当該区間外からの土を流用する必要があることから、通過ルートとして不適当と判断した。 評価点数：◎3点　○2点　△1点				



項目	重要種保全	公園指定植物保全	改変面積	土工バランス	評価
	◎	◎	◎	◎	◎ 12点
	消失箇所 9箇所	消失箇所 28箇所	23,332m2	残土 2,820m3	
	現計画案は現道と並走する形状としているため、う回路が不要になるため、改変面積が最も少ない。また、重要種や公園指定種の消失箇所が最も少なく、土工バランスに優れ、残土となるため3案中最も環境への影響が少ないと判断した。 評価点数：◎3点　○2点　△1点				